

⑤ 愛染小学校

私立愛染尋常小学校(南区下寺町々丁目愛染園内)は、財団法人の井記念愛染園の事業のノッテ、大正6年7月に設立認可、7年4月に開校した。

愛染夜学校 → 大正7年

併設 幼稚園
設 幼児の委託所

同校は「園児のため義務教育を修了し難い状態にある新成に限って入学を許す」ことにし、はじめは1、2、3年生は昼間部、4年生以上は夜間部としたが、9年度からは4年生まで昼間授業に変更、さらに2年制の夜間補習科を付設した。児童は印刷工が最も多く、^{おしり}白粉工がこれに次いでという。

⑥ 累徳夜学校

明治27年、累徳婦人会によつて開校

⑦ 嚙尾篤志学園

嚙尾さとが1人2人とこどもを集めて教えていたのを明治20年12月に北区北野中ノ尋常小学校訓導林義一郎とはかりて設立。家産5000円を基本金として夜学校を開いた。

⑧ 私立清修小学校

西区三軒宮上1町に明治41年3月開校

2) 大正時代 — 「私立学校時代」

① 私立弘清尋常小学校（東成郡生野村字林手）も、弘清
会育児部収容の児童で学齡に達した者を教育したところ
で大正3年（1月）私立小学校の設立を認可され、6月に開
校した。これは普通授業の6年制で、心身の発育におこ
わぬ児童が多いので、体育と精神教育に重点をおいた。

② 私立岩崎篤志夜学校（北区東野田町3丁目）が大正
2年4月岩崎吉松によって設立され、尋常小学校程度
の6年制授業で、毎夜7時から2時間（3講時）開か
れた。同校は大正5年4月に私立岩崎篤志裁縫学校も
併設して、女子教育が普及したといいつながりながら、
貧乏の子供だけが昼間修学できないのを嘆き、法令に制限
なく庶民子女の入学を許可し、夜間2時間に裁縫を主
とし、あわせて修身、国語、算術を加えた授業をおこ
した。

このように、不就学の子どもたちの児童こそ、当時の雇用の泥沼にあえいでいたものであり、形式的な習学では解決できやうもなかった。やがて私立学校の慈善救済事業が丹念に力をついてあげ、最も隅の子どもたちにも教育の手をさしこんでいったのである。

4) 公立勤労学校へ (大正末から昭和初期)

① 徳園尋常小学校

大正11年3月 大阪市立徳園尋常小学校となる

昭和2年6月 職業教育を課する各種学校となる

「大阪市立徳園勤労学校」と改称する

② 有隣尋常小学校

大正11年3月 大阪市立有隣尋常小学校となる

昭和2年6月 「大阪市立有隣勤労学校」

③ 心華小学校

大正15年6月 「大阪市立豊崎勤労学校」

勤労学校とは、

「貧しい児童の保護と職業教育に重点をおいた

小学校類似の各種学校」 } 職業教育とホー
併せて普通教育も行う

5) 国民学校へ

昭和16年3月31日 尋常高等小学校へ } 徳国
有隣 勤労学校
豊崎

昭和16年4月1日 国民学校へ } 徳国
有隣 尋常高等小学校
豊崎

戦災をうけた校とも廃校

徳国民国民学校 - 戦災 - 講堂のみ残る → 大坂市西成区根室

有隣国民学校 - 戦災

豊崎国民学校 - 廃校 → 大坂市西成区院長柄分院

→ 大坂市中央厚生相談所

→ 大坂市長柄泉 (改称)

不 就 学 児 童 の 学 校

明 治	大 正	昭 和
愛隣夜学校 M 29 ?	
興徳夜学校 M 39	T ₂ 私立興徳尋常小学校 --- ?	
鳴尾篤志学舎 M 40	
勝山夜学校 M 42	
心華小学校 M 42	大正 大阪社 豊崎勤学学校 --- 昭和 5/6 市立豊崎国民学校 --- 廃校
愛染橋夜学校 M 42	T ₇ 私立愛染橋尋常小学校	昭和 4/4 市立日東小学校
有隣尋常小学校 M 44	T ₁₁ 大阪市立 有隣尋常小学校	S 大阪社 有隣勤学学校 --- 昭和 5/6 市立有隣国民学校 --- 廃校
徳園尋常小学校 M 44	T ₁₁ 大阪市立 徳園尋常小学校	S ₂ 大阪市立 徳園勤学学校 --- 昭和 5/6 市立徳園国民学校 --- 廃校 昭和 52.3.31
私立清橋小学校 M 41 ?	
私立清尋常小学校 T ₃ ? 大阪市立清橋小学校
私立岩崎篤志夜学校 T ₂	T ₆ 私立岩崎篤志夜学校 併設	

(私立学校)

(公立勤学学校)

(国民学校)

52 徳風勤労学校の概要

1. 位置 大阪市西成区甲岸町12

2 設立の趣旨

大阪市立有隣・豊崎の両勤労学校と並んで、児童に
対し学用品及び被服を給与するだけでなく、生活程度
に応じ食事や生活費の一部を補助して就学を容易にし
、その教育についても職業教育、徳性教育に重点を置
き、併せて普通教育を施し、卒業後直ちに自主生活に
はいる能力を養うことに努める特殊教育機関であった。

3 設立の由来と沿革の概要

・ 設立の由来については、西成市民館前に埋存して
いる「私立徳風学校記念碑」により、

「大阪府今宮木津の方面細民多し一教育振わず、
風紀頹廢し、諸罪悪またその間に行なわれ、是を
以て少年悪風に感染せざる者ほとんど稀なり一
前難波警察署長警視天野時三郎氏深く之を憂ひ、
篤志家又保田権四郎氏に謀り、明治44年7月5日
地を南高岸町に定め、教場を仮設し徳風小学校と
稱す、この第一たが伝われや同情のよく集まり、
金品を寄贈する者あけて数うべからず一」

高倉前平白の援助を得て、新たに校舎を広田町に築く。
其の後又年間、歴代の署長亦よく監理の任にまたり、
育英の積日になり月にすすみ、風行なわれ俗なり、又
疇昔の悪習を見ず---こと上に聞え内帑金を賜はる
こと又回、聖恩優渥、無言感激す。ことしく月設立者
細理を大阪市に移し、益々伸展を回す。本校有終之美
を済すと謂うべきなり。---

大正〃年七月十日

大阪市長 池田忠雄
徳園校長 中城正成

↓

- 明治〃〃年七月十日 浪速区(当時南区)南高岸所に
工場の一部をもち、仮校舎とし、私立徳園尋常小学
校として開設せられた。

当時の難波警察署長天野時三郎警視(後の大阪市社会
部長)が、ある日管下の庁官、木津一田の民情視察を
したところ、魚間不良児が散在して投石のいたずらさ
して逃走するのに出会い、不就学児の不幸で悲惨なこ
とを目のあたりに見て深く憂いとした。しかも都路の
生活環境がまだ甚だ不良で目をあわやせものがある
た。街が不潔で、怠惰喧騒で飲酒に耽り、とはくを事

として争論を好み、罪を犯して恥じない者が多く、自然行政の煩雜も多かった。天野氏は不良徒輩の檢挙処罰よりも、教育により子どもと父母兄弟の教化善導こそ不良環境の根本的改善の道と着眼した。そこで不良な不就業児童を收容して教育しようと考え、土地の有力者や細民の同情者である久保田格四郎氏（久保田鉄工の創業主）に回ったところ、この経営に当ることを快諾した。ここに仮校舎を設けて私立徳風尋常小学校を夜学校として開設されたのである。

- 明治25年6月30日 高倉藤平氏（堂島米穀取引所理事長）の土地提供と校舎建築費負担の義挙を得て、浪速区花田町6番地（花田神社となり）に新校舎が開設された。
- 大正2年 昼間部開設。浴場新設。
- 同11年3月31日 大阪市に移管、大阪市立徳風尋常小学校となった。
- 同14年4月 職業教室を新築し補習科を設け、女子洋裁科の教授を開始した。
- 同14年10月 公費をもつて昼食の給食を実施。
- 昭和2年6月1日 適正な教育実施のため学制改正、職業教育のための作業時間を増し大阪市立徳風勤労学校

と改称された。

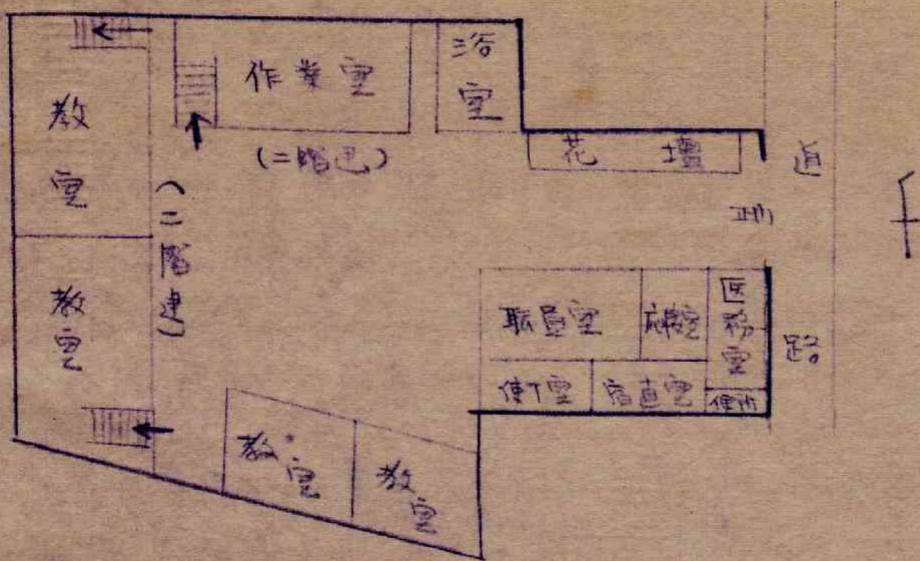
- 同13年1月19日 西成区甲岸町1番地に新築移転。
旧校居た田町付近の発展により古くから大部の児童は南に居住するようになっており、通学の不便多く、また旧校居の狭隘腐朽が甚しかった故である。建築費は市費146,500円。
- 同16年4月1日 大阪市徳風国民学校と改称。
- 同19年9月10日 和歌山県海草郡直川村に集田疎圃(約150名)
- 同20年6月15日 空襲により講堂を除いて旧校居焼失。
- 同21年3月31日 菟之茶屋小学校に合併、仮校となる。講堂は一時進駐軍労務紹介所となり、その後戦災者浮浪者の住居となっていたが、昭和30年4月から西成市民館となり、現在に及んでいる。

4. 校名の出典

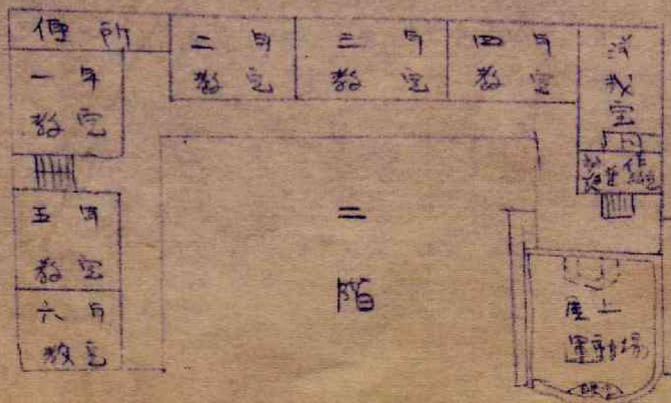
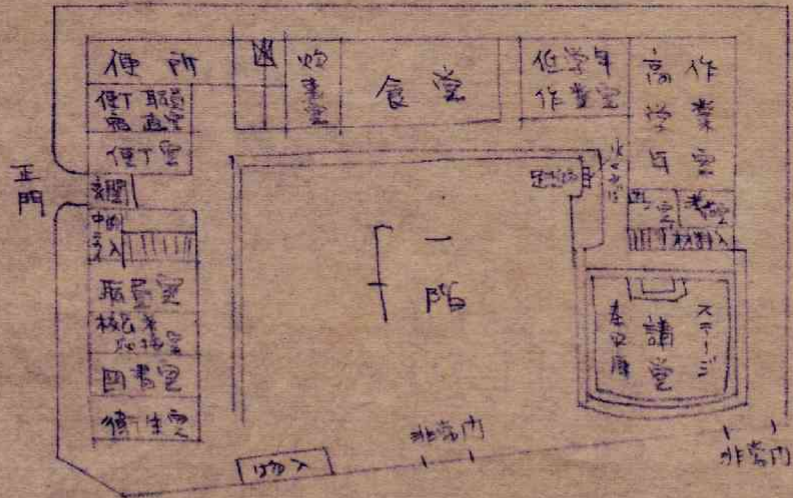
天野氏は漢学に造詣深く、「論語」顔淵篇より命取されたという。「君子の徳は風なり、小人の徳は草なり、草は水に風をくわうれば必ず必ず」

6. 校地、校舍Aの経費

○ 右田町旧校舎平面図 (校地の2/3坪)



○ 釜ヶ崎の新校舎平面図 (S/3)



- ・校地面積 620坪 建坪 241坪 木造2階建
- ・職員室、応接室、教務員室、宿直室の外、普通教室6、
作業室2、演習室、作法教範室・調理室・食堂・理髪室
・浴室・図書室・衛生室及び講堂

・予算

昭和5年 12,990円 昭和10年 18,938円

昭和11年 19,668円 昭和12年 22,005円

6. 歴代校長

初代 式井清太 (昭3.4.25 ~)

2代 中城正城 (大正4.3.1 ~ 昭10.7.3)

3代 南 栄蔵 (昭7.4.2 ~ 9.2.20)

4代 小森俊一 (昭9.4.29 ~ 14.12.14)

5代 南 義一 (昭15.1.10 ~ 21.3.31)

7. 職員数 (513)

校長1 訓導9 (男5 女4) 嘱託教員2 (男1 女1)

事務員1 衛生婦1 使丁3 雑役婦1 計16名

8 児童数及学級数

児童数

開設時 45~60名 昭和5年 41名

昭13 326名(昼間生) 昭16 261名
20名(夜間生)

大体300名平均

学級数

昼間部 6学級及補習科(女子洋裁)1学級

夜間部 2学級(1,2,3年組と4,5,6年組)及
補習科(同上)1学級

9 通学区と入学者

校下は一定はないが、大体は今宮地区で東入舟町や西入舟町(当時の通称釜ヶ崎)から登校する簡易旅館止宿の極貧子弟が割女命、その他近接の浪速区・天王寺区・住吉区の児童が割女命であった。

入学者は、就学通知書が出ても、極貧のため地区の学校へ行くことが困難で、当校に入学を希望するものすべて入学させた。また長欠児で術をうつろっている者を、警察・社会事業団体・教師の訪問により見つ

けて入学させた。

昭和十二年、入学者109名に対し、退学者は13名で、異動はかなり大きく思われる。

10. 地区・保護者の状況と児童の特質

釜ヶ崎一円は生活最も悲惨で、経済、衛生、道徳等の諸環境は甚だ不良である。ヤケで生活に悩む者、失業に苦しむ者、医薬に窮する者、人倫を乱る者、犯罪をなす者、怠惰放しように流れる者など甚だ多く、この悪環境が児童に及ぼす影響は極めて大きい。

その保護者は、無学・不定職・病弱・配偶者喪失離別等の不幸な者が多く、多量の生活苦悩から怠惰で窮乏心に陥り、希望を失い自棄的行為が多く、現在の一日を、て将来を考へることさらになく、高い情操を有せず、文化を理解せず、不平不満を蔵し、世にすねる人を偽り、愛を融みぬ暇も余裕もなく、すべて不幸の二字にまている。

この間に生長する児童は概して早熟、不衛生で私語多く、向上感謝の念に乏しく、芝居活動写真を好み、怠惰癖を有し、嘘言を用い鼻屈、執拗である。しかし幼時から労働に慣れ、忍耐心の強いは長所と思われる。こ

これらの虫ばまれた童心を明朝にさせよことは当校不断の夙願とされた。

昭和13年当時の実態調査によれば、約200名の調査人員中、保護者学歴の尋常以下152名、子量以下の間に生活しているもの96名、欠食児童24名、一家一灯の電灯の存りもの96名、時計の存りもの115名、親子の続柄も272名中庶子、私生子、無籍、養子不明を合わせて98名、父子家庭24名、母子家庭25名、もって不幸の一端を知ることができると。

11. 德國の教育

(1) 無償の教育

学用品、給食、被服を無償で給与された。それは公費が有志一般からの寄付品によりまかなわれた。しかし患はに止まらないう心掛けられた。

(2) 勤勞教育

校名が示すとおり職業教育を重点とし、毎、高学年用二つの作業室をもち、主として木工教育がなされた。

補習科は女子に対し洋裁を教授し、ミシンも50台備

えられていた。なお、勤労一般教育を重んじていたことは言うまでもない。

(3) 報徳教育

本校の一大特色で、小森、南岡校長を中心として全職員一人ひとりで実践に当たつ、全国的に有名であった。東京文理科大学加藤仁平教授も度々来校、児童、職員、保護者に対して講話指導された。

それは二宮尊徳翁の報徳精神を柱とするもので、大地の恩、君の恩、父母の恩徳に感謝し報ずることを思い、勤儉、節度(身に合うくらし)、推譲(保つを作)、他にまた後に譲る)の実践に努めるものである。

本校では前述の勤労教育に具現する外、校長自ら自室から児童と共に大い車を引いてくが集りをして、その売却金で有用品を購入するなど、また毎日児童がノミコシの貯金をし、自らの後日の費用に当てたり、他へ拠出した)、積小為大を心掛けた。

児童に対して少宮少年報徳社を作って常会など実践していた外、保護者に対しても呼びかけ少宮報徳社を組織し活発な活動がなされていった。報徳祭、報徳週間も行われた。

(4) 生活指導

教徳教育の中心であることはもちろんであるが、通学困難な児童であるので、常に校下巡視、家庭訪問、夜間指導を頻繁に行われた。そして児童のみならず、親の教育厚生に大きな力をかけた。その詳細な職員の訪問記録が保存されてあり、当時の様子がまざまざと窺せられる。

先生方の熱意のもと、子どもたちの礼儀もなかなか正しかった。作法室を利用した指導も行われた。

夏休みなども休まず登校させ、学習、勤労、給食などの指導が行われた。

(5) 保健衛生指導

不潔な児童が多かったのが、学校の浴場で週2回の入浴指導が行われ、また篤志家の奉仕と先生のかにより、児童月1回の散髪がなされた。

疾病者も多かったのが、寿屋援助による無料依聴券が発行され、済生会官立診療所などで治療をうけていた。

清掃にはよく努力され、校舎の清潔がよく行き届いていたことが、参観者の記録によっても知られる。

(6) 教科学習

先生の普通校に直けたことの影響により、一般に
に教授細目、教科書により指導された。環境や途中入学
などのため、若干弱かったように思われる。

(7) 夜間部について

開校以来訪けられ、先生は夜間部の先生が交替で指導
されたが、出席者は少なく、登校者は韓国人がほとんど
で、効率は少なかったようである。